



2015年度第3四半期 決算説明資料

2016年2月4日

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.



2015年度第3四半期決算の概要について説明します。

I. 2015年度第3四半期決算実績

・サマリー	3
・セグメント別内訳	4
・貸借対照表	5
・主要財務指標／キャッシュ・フロー	6
・受注高・受注残高	7
・売上高	8
・営業利益	9

II. 2015年度業績見通し

・業績見通しサマリー	11
・セグメント別内訳	12

III. 補足資料

補足資料	14-19
------	-------

I . 2015年度第3四半期決算実績

第3四半期決算実績 サマリー



(単位: 億円)

	'14-3Q累計 (利益率)	'15-3Q累計 (利益率)	増減 (増減率)
受 注 高	26,182	26,309	+126 (+ 0.5%)
売 上 高	26,833	28,326	+1,493 (+ 5.6%)
営 業 利 益	(6.4%) 1,716	(6.5%) 1,853	+137 (+ 8.0%)
経 常 利 益	(7.0%) 1,882	(6.2%) 1,748	△ 134 (△ 7.1%)
特 別 損 益	△ 458	△ 699	△ 241 -
純 利 益 (※)	(2.7%) 711	(1.9%) 533	△ 177 (△ 25.0%)
EBITDA	(11.0%) 2,952	(10.9%) 3,101	+148 (+ 5.0%)

'15-3Q累計特別損益
(△699)の内訳

【特別利益】

・ 固定資産売却益 42

【特別損失】

・ 客船事業関連損失 △530 (3Qで△221追加計上)
 ・ 事業構造改善費用 △185
 ・ 投資有価証券売却損 △26

(※)'15-3Q累計は「親会社株主に帰属する当期純利益」

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

3

サマリーについて説明します。

受注高は、前年同期から126億円増加の26,309億円となりました。前年同期は、一部の海外子会社において、決算期を12月から3月に変更した為、決算期間が15ヶ月になっています。その影響を除いた実質的な受注高は、前年同期から約1,300億円増加しました。

売上高は、前年同期から1,493億円増加の28,326億円となりました。受注高と同様に、決算期変更影響を除いた実質的な売上高は、前年同期から約2,500億円増加しました。

営業利益は、前年同期から137億円増加の1,853億円となりました。受注高・売上高と同様に、決算期変更影響を除いた実質的な営業利益は、前年同期から約210億円増加しました。

経常利益は、前年同期から134億円減少の1,748億円となりましたが、主な要因は、為替差損益が前年同期より悪化したことによるものであり、内容としては特段問題ないと考えています。

一方、金融収支は着実に改善し、受取利息・配当金と支払利息を合算すると、前年同期から約40億円増加しました。これは、有利子負債圧縮等の成果によるものです。

特別損益は、前年同期から241億円悪化のマイナス699億円となりました。

主な内訳は以下の通りとなります。

現在建造中の客船に関して工期の遅れやコスト増加が発生し、第2四半期決算で引き当てた額をさらに200億円強上回る損失が見込まれることとなり、第3四半期までの累計で、530億円の損失となりました。

次に、事業構造改善費用として185億円の損失を計上しましたが、不採算事業のカーブアウトや生産合理化の為の費用であり、業績見通しに織り込んでいる500億円の損失の一部が実現したものです。

また、投資有価証券売却損マイナス26億円についても、事業売却に伴う株式の売却損によるものであり、大きな意味で事業構造改善のための費用です。

第3四半期決算実績 セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高			営 業 利 益		
	'14-3Q 累計	'15-3Q 累計	増減	'14-3Q 累計	'15-3Q 累計	増減	'14-3Q 累計	'15-3Q 累計	増減
エネルギー・環境	10,225	9,165	△ 1,060	10,274	10,385	+111	765	691	△ 74
交通・輸送	4,770	4,369	△ 401	3,769	4,057	+288	132	445	+312
防衛・宇宙	1,356	2,155	+799	3,157	3,261	+104	183	193	+10
機械・設備システム (※)	9,617	10,454	+837	9,405	10,429	+1,024	638	553	△ 84
その他 (※)	1,142	1,209	+66	1,044	1,133	+89	63	70	+7
消去または共通	△ 929	△ 1,044	△ 115	△ 817	△ 941	△ 124	△ 66	△ 101	△ 34
合計	26,182	26,309	+126	26,833	28,326	+1,493	1,716	1,853	+137

(※)【報告セグメントの変更について】

・事業再編により、一部の事業のセグメントを、「その他」から「機械・設備システム」に変更。

(' 14-3Q累計の実績は、変更後のセグメントに合わせて組み替え)

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

4

セグメント別の内訳について説明します。

受注高は、エネルギー・環境および交通・輸送で前年同期を下回りました。エネルギー・環境は、商談中の火力プラントの受注時期のずれ等により、前年同期を1,060億円下回ったものの、2015年度通期ではカバーできると考えています。また、交通・輸送は、MRJで大型受注のあった前年同期を401億円下回りました。防衛・宇宙および機械・設備システムは、堅調に推移しています。

売上高は、機械・設備システムが前年同期から大きく増加しました。これは、ドイツシーメンス社の製鉄機械事業を統合したことによるものです。

営業利益は、エネルギー・環境で前年同期から74億円の減少となりました。これは主に、関西電力(株)向けガスタービン発電プラントにおける蒸気タービンの不具合対策関連費用によるものです。機械・設備システムも前年同期から84億円減少となりましたが、これは、主に決算期変更影響によるものです。

第3四半期決算実績 貸借対照表



貸借対照表

(単位:億円)

	'14年度末	'15-3Q末	対前年度末 増減
売上債権	12,912	11,567	△1,345
たな卸資産	13,248	14,885	+1,636
その他流動資産	9,358	10,422	+1,064
固定資産	11,963	11,615	△347
投資等	7,720	7,977	+257
資産合計	55,203	56,468	+1,265
買入債務	8,692	7,522	△1,169
前受金	6,631	6,322	△309
その他	8,923	8,780	△142
有利子負債	9,755	12,757	+3,001
純資産	21,200	21,085	△115
(うち自己資本)	(17,807)	(17,672)	(△135)
負債・純資産合計	55,203	56,468	+1,265

利益の積み上がり +136
その他の包括利益 △275
(為替換算調整勘定他)

貸借対照表について説明します。

資産は、2014年度末から1,265億円増加しました。全社を挙げてバランスシートのスリム化を進めていますが、大型M&Aの影響により、特に棚卸資産を中心にバランスシートが膨らんでいます。現在取り組んでいるキャッシュ・フロー改善活動の中で、バランスシート圧縮を図っていきます。

純資産は、2014年度末から若干減少しました。これは、利益は順調に積み上がっているものの、為替換算調整勘定等の包括利益のマイナスによるもので、事業経営上、大きな問題ではありません。

有利子負債は、バランスシートが膨らんだことで、2014年度末から3,001億円増加しました。当社の事業サイクル上、毎年度第3四半期が最もキャッシュフローの厳しい時期となり、例年、第4四半期に回復していきます。

主要財務指標

	'14-3Q末	'14年度末	'15-3Q末	対前年度末 増減
自己資本比率	32.2%	32.3%	31.3%	△ 1.0pt
有利子負債残高 (単位: 億円)	11,553	9,755	12,757	+3,001
D/Eレシオ	0.58	0.46	0.61	+0.15

キャッシュ・フロー

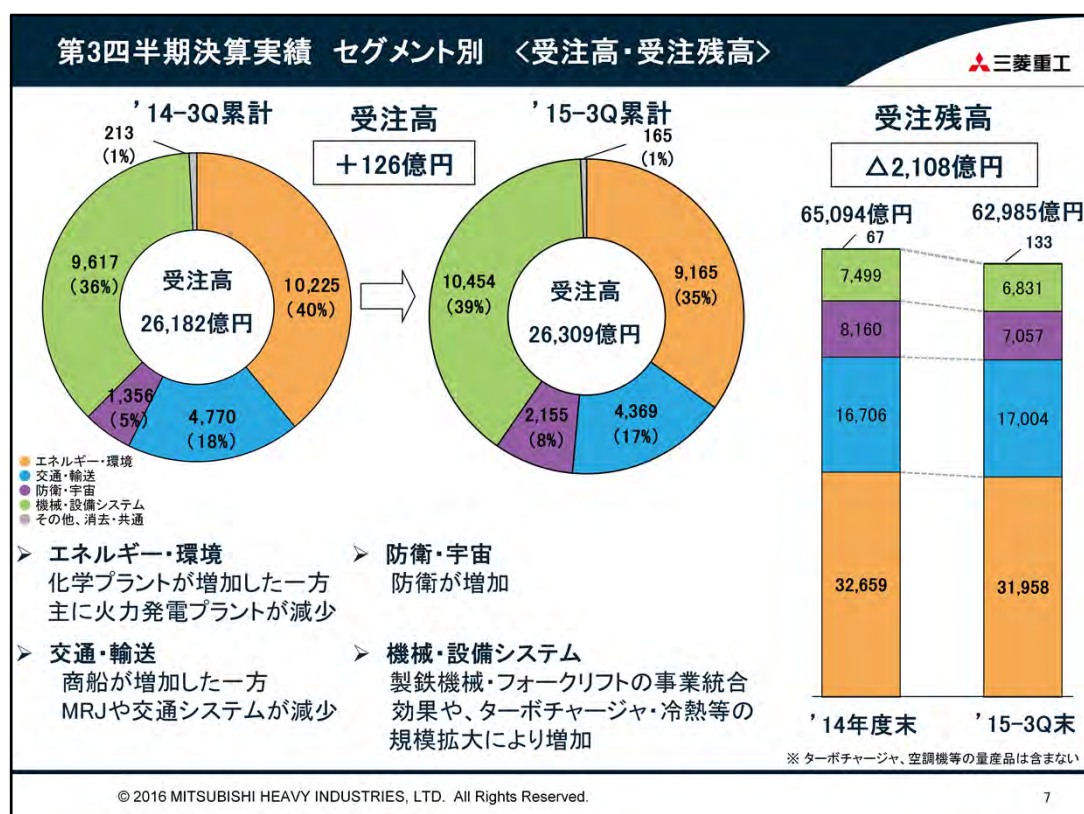
(単位: 億円)

	'14-3Q 累計	'15-3Q 累計	増減
営業CF	△ 890	△ 1,127	△ 236
投資CF	△ 1,320	△ 1,297	+23
フリーCF	△ 2,211	△ 2,424	△ 213

主要財務指標およびキャッシュフローについて説明します。

2014年度末から、自己資本比率は1.0ポイント減少、有利子負債は3,001億円増加、D/Eレシオは0.15増加しました。

フリーキャッシュフローは、第3四半期断面でマイナス2,424億円となりましたが、第4四半期でどれだけ改善を果たすことができるかが、当社の経営における重要なポイントと認識しています。



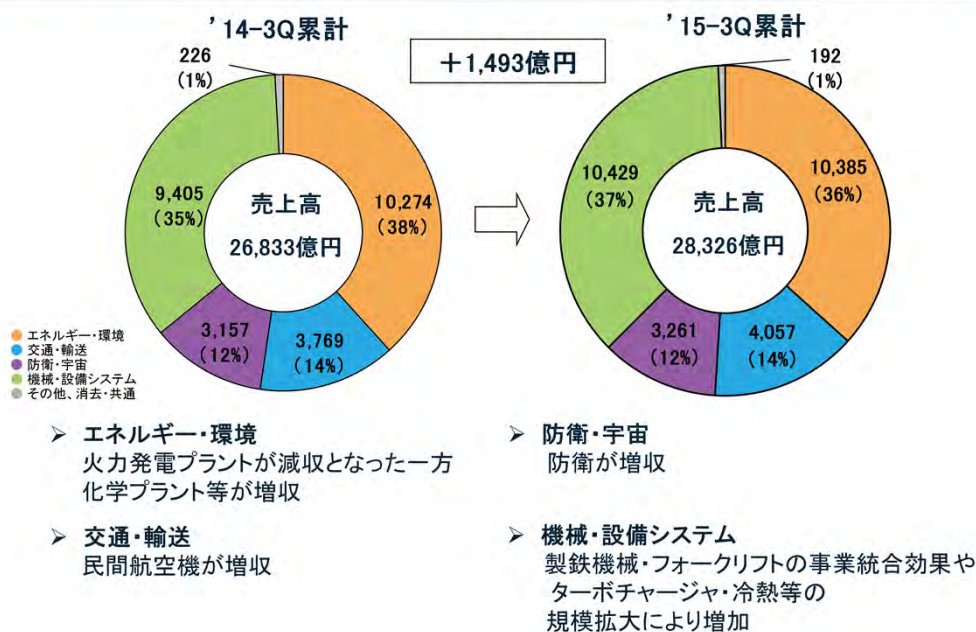
セグメント別状況について説明します。

受注高・受注残高ともに、各セグメントの構成比に大きな変動はありません。

今期潜水艦等を受注した防衛・宇宙の割合が少し増加しました。

また、機械・設備システムも、製鉄機械事業の統合効果やターボチャージャ・冷熱等の事業規模拡大により、割合が増加しました。

第3四半期決算実績 セグメント別 <売上高>

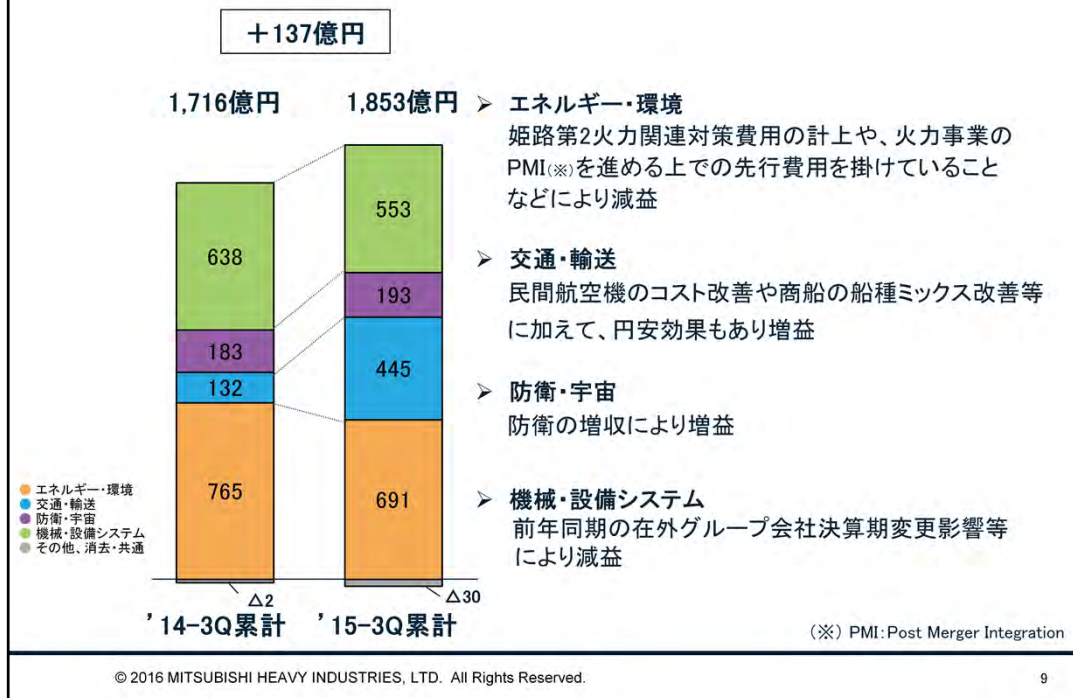
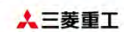


© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

8

売上高は、受注高と同様に、機械・設備システムを中心に増加しました。

第3四半期決算実績 セグメント別 <営業利益>



営業利益について説明します。

エネルギー・環境の減益は、主に、不具合対策関連費用によるものです。

交通・輸送の増益は、ボーイング向けTier1事業におけるコスト改善や円安効果によるものです。

防衛・宇宙は、ほぼ前年度並みです。

機械・設備システムの減益は、主に決算期変更によるものであり、この影響を除けば、ほぼ前年度並みとなります。

Ⅱ．2015年度業績見通し

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、また、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
従いまして、この業績見通しのみにより、この業績見通しを投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。
実際の業績は、様々な重要な要素により、この業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。
実際の業績に影響を与える要素には、当社グループの事業領域をとりまく経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レート、日本の株式相場などが含まれます。

2015年度業績見通し サマリー

(単位:億円)

	'14年度実績 (利益率)	'15年度		対前年度増減 (増減率)
		今回見通し (利益率)	15.10.30 見通し	
受 注 高	46,991	47,000	47,000	+8 (+0.0%)
売 上 高	39,921	41,000	42,000	+1,078 (+2.7%)
営業利益	(7.4%) 2,961	(7.3%) 3,000	3,200	+38 (+1.3%)
経常利益	(6.9%) 2,747	(6.6%) 2,700	3,000	△ 47 (△1.7%)
純 利 益(※)	(2.8%) 1,104	(2.2%) 900	1,300	△ 204 (△18.5%)
R O E	6.5%	5.0%	7.1%	△1.5pt —
EBITDA	(11.7%) 4,650	(11.7%) 4,800	5,020	+149 (+3.2%)
フリーCF	386	△500	0	△ 886 —
配当(1株あたり)	11円 (中間5円/期末6円)	12円 (中間6円/期末6円)		

(※)'15年度見通しは「親会社株主に帰属する当期純利益」

【未確定外貨】

10億ドル (期首:30億ドル)

2億ユーロ(期首:4 億ユーロ)

【前提為替レート】

1ドル =120円

1ユーロ=130円

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.

11

2015年度業績見通しについて説明します。

受注高は、大型案件の受注を第4四半期に控えているために、少し流動的な側面が残っていますが、前回公表値を変更する必要はないと考えています。

売上高は、一部の事業において納期のずれ(繰り下がり)や工事進捗率の低下などが見られたため、前回公表値から1,000億円下方修正しました。

営業利益は、エネルギー・環境において、先ほどご説明した不具合対策関連費用等を考慮し、300億円下方修正しました。一方、堅調に推移している交通・輸送を、100億円上方修正しました。合わせて200億円の下方修正ですが、これを最大限上積みできるよう、第4四半期で努力します。

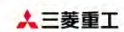
純利益は、400億円下方修正しました。これは、営業利益の減少見込みに加え、客船事業における特別損失の追加発生を考慮したものです。

EBITDAは、売上・営業利益の伸びに連動して堅調に推移しています。

フリーキャッシュフローは、バランスシートが想定よりも少し膨らんだ点を踏まえ、500億円下方修正の、マイナス500億円としました。

配当は、変更ありません。

2015年度業績見通し セグメント別内訳



(単位: 億円)

	受 注 高			売 上 高				営業利益			
	'14年度 実績	'15年度 見通し	対前年度 増減	'14年度 実績	'15年度		対前年度 増減	'14年度 実績	'15年度		対前年度 増減
					今回 見通し	15.10.30 見通し			今回 見通し	15.10.30 見通し	
エネルギー・環境	19,236	20,000	+ 763	15,995	16,000	16,000	+ 4	1,626	1,400	1,700	△ 226
交通・輸送	9,992	7,000	△ 2,992	5,295	5,500	6,500	+ 204	234	550	450	+ 315
防衛・宇宙	4,174	4,000	△ 174	4,839	4,500	4,500	△ 339	285	270	270	△ 15
機械・設備システム (※)	13,447	15,000	+ 1,552	13,474	14,000	14,000	+ 525	877	850	850	△ 27
その他 (※)	1,507	2,000	+ 492	1,549	2,000	2,000	+ 450	103	150	150	+ 46
消去または共通	△ 1,367	△ 1,000	+ 367	△ 1,233	△ 1,000	△ 1,000	+ 233	△ 166	△ 220	△ 220	△ 53
合計	46,991	47,000	+ 8	39,921	41,000	42,000	+ 1,078	2,961	3,000	3,200	+ 38

(※) 【報告セグメントの変更について】

・事業再編により、一部の事業のセグメントを、「その他」から「機械・設備システム」に変更。

（'14年度実績は、変更後のセグメントに合わせて組み替え）

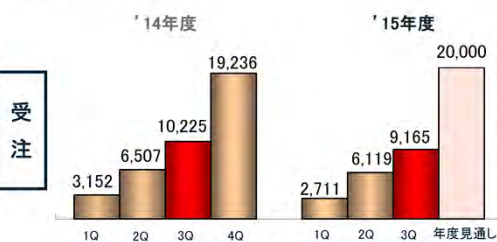
以上で、2015年度第3四半期決算の説明を終わります。

Ⅲ. 補足資料

補足資料① 第3四半期決算実績 <エネルギー・環境>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 △1,060億円の減少

大型案件を受注した化学プラントが増加した一方、前年同期に複数の新設プラントの受注があった火力発電プラントが減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【ガスタービン受注台数】

'14-3Q累計：26台

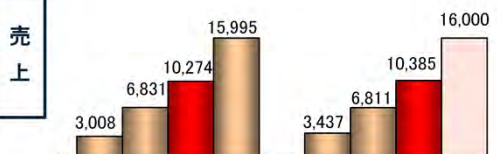
	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	4	4	1	-	9
中小型	-	1	7	9	17
合計	4	5	8	9	26

【ガスタービン契約残台数】

	大型	中小型	合計
'14-3Q末	39	37	76
'14年度末	34	33	67
'15-3Q末	40	28	68

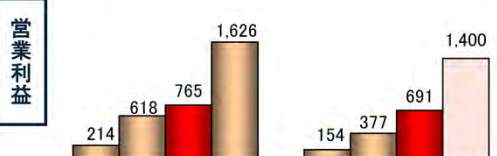
'15-3Q累計：12台

	北米	アジア	国内	その他	合計
大型	1	6	1	2	10
中小型	-	1	-	1	2
合計	1	7	1	3	12



売上：対前年同期 +111億円の増収

火力発電プラント等が減収となった一方、化学プラント等の増収により、前年同期を上回った。



損益：対前年同期 △74億円の減益

姫路第2火力関連対策費用の計上や、火力事業のPMIを進める上での先行費用を掛けていることなどにより、前年同期を下回った。

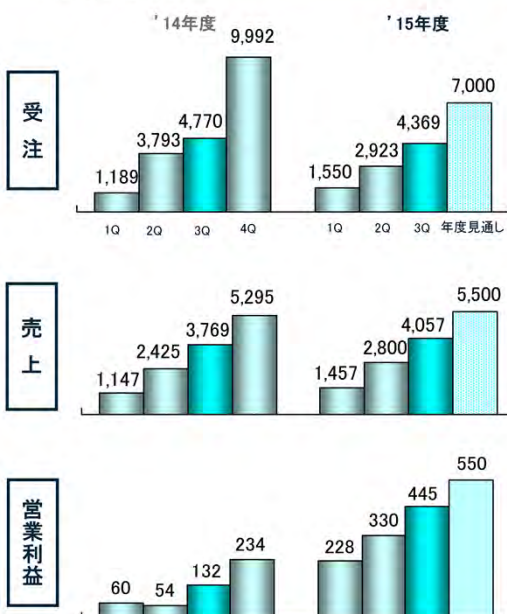
年間見通し

営業利益：1,700億円から1,400億円へ修正

補足資料① 第3四半期決算実績 <交通・輸送>



(億円・各期の数値は累計)



受注：対前年同期 △401億円の減少

商船が増加した一方、MRJや交通システムが減少したことなどにより、前年同期を下回った。

【商船 受注隻数】

'14-3Q累計：7隻 (1Q:3隻、2Q:3隻、3Q:1隻、4Q:4隻)

'15-3Q累計：11隻 (1Q:4隻、2Q:2隻、3Q:5隻)

【商船 契約残隻数】39隻

(LNG船 12隻、LPG船 8隻、巡視船 6隻 他)

売上：対前年同期 +288億円の増収

民間航空機を中心に増加し、前年同期を上回った。

【B777 引渡機数】

'14-3Q累計：76機 (1Q:26機、2Q:24機、3Q:26機、4Q:22機)

'15-3Q累計：80機 (1Q:28機、2Q:27機、3Q:25機)

【B787 引渡機数】

'14-3Q累計：90機 (1Q:32機、2Q:28機、3Q:30機、4Q:32機)

'15-3Q累計：92機 (1Q:32機、2Q:31機、3Q:29機)

損益：対前年同期 +312億円の増益

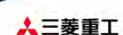
民間航空機のコスト改善や商船の船種ミックス改善等に加えて、円安効果もあり前年同期を上回った。

年間見通し

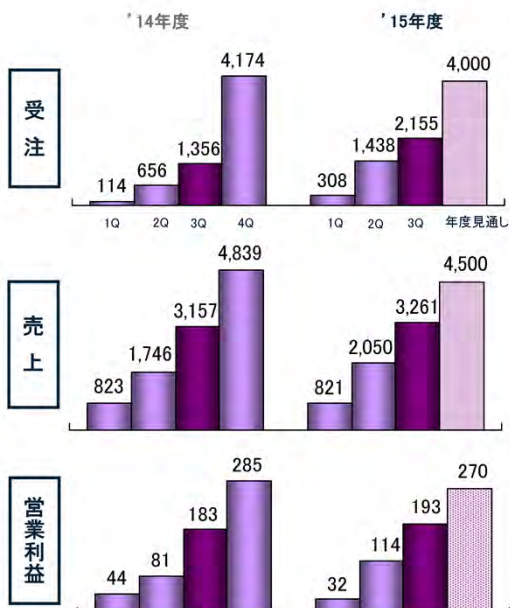
売上高：6,500億円から5,500億円へ修正

営業利益：450億円から550億円へ修正

補足資料① 第3四半期決算実績 <防衛・宇宙>



(億円・各期の数値は累計)



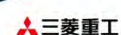
受注 : 対前年同期 +799億円の増加
防衛が増加し、前年同期を上回った。

売上 : 対前年同期 +104億円の増収
艦艇等、防衛を中心に増加し、前年同期を上回った。

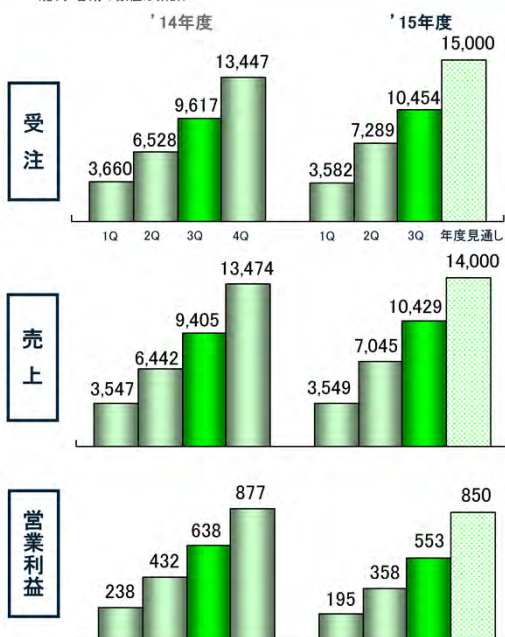
損益 : 対前年同期 +10億円の増益
防衛の増収に伴い、前年同期を上回った。

年間見通し
変更なし

補足資料① 第3四半期決算実績 <機械・設備システム>



(億円・各期の数値は累計)



受注 : 対前年同期 +837億円の増加
売上 : 対前年同期 +1,024億円の増収
 製鉄機械・フォークリフトの事業統合効果やターボチャージャ・冷熱等の規模拡大により前年同期を上回った。

損益 : 対前年同期 △84億円の減益
 前年同期に在外グループ会社決算期変更があった影響等により、前年同期を下回った。

年間見通し
 変更なし

(※)【報告セグメントの変更について】
 ・事業再編により、一部の事業のセグメントを、「その他」から「機械・設備システム」に変更。
 (表中に記載の実績は、変更後のセグメントに合わせて組み替え)

1. 研究開発費、減価償却費、設備投資

(単位:億円)

	'14-3Q累計	'15-3Q累計	'15年度 見通し
研究開発費	915	917	1,500
減価償却費	1,147	1,161	1,700
設備投資	1,064	1,164	1,800

2. 販売費及び一般管理費

(単位:億円)

	'14-3Q累計	'15-3Q累計
販管費	3,796	4,010

3. 為替レート

	'14-3Q累計	'15-3Q累計
USドル(円/USドル)	106.2	121.4
ユーロ(円/ユーロ)	141.2	134.9

4. 海外地域別売上高

(単位:億円)

	'14-3Q累計	'15-3Q累計
アジア	4,957 (18%)	5,086 (18%)
北米	4,719 (18%)	5,718 (19%)
欧州	2,559 (10%)	2,620 (9%)
中南米	820 (3%)	1,064 (4%)
中東	903 (3%)	767 (3%)
アフリカ	612 (2%)	766 (3%)
大洋州	305 (1%)	215 (1%)
合計	14,877 (55%)	16,239 (57%)

5. 所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		'14-3Q累計	'15-3Q累計
日本	売上高	21,220	20,984
	営業損益	1,420	1,520
北米	売上高	3,128	3,855
	営業損益	20	107
アジア	売上高	2,831	2,865
	営業損益	226	242
欧州	売上高	2,300	2,681
	営業損益	54	△ 34
その他	売上高	335	781
	営業損益	△ 4	18
消去または共通	売上高	△ 2,983	△ 2,841
	営業損益	-	-
合計	売上高	26,833	28,326
	営業損益	1,716	1,853



この星に、たしかな未来を

© 2016 MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES, LTD. All Rights Reserved.